

# 「住民合意のない区画整理」反対ニュース

羽村駅西口区画整理反対の会 2022(R4)7/5 No.274 連絡先:山崎 陽一・神屋敷和子

## 羽村駅西口区画整理事業に関する検証会議始まる

第1回 検証会議 6月6日夜7時～9時30分(市役所会議室)にて行われました。

- 会 長 中村英夫：日本大学教授（元・国土交通省都市計画課）  
副会長 玉川英則：東京都立大学名誉教授（都市環境科学）  
委 員 加園多大：弁護士  
// 加藤孝明：東京大学教授（地域安全システム・防災）  
// 川村和則：日本都市技術株式会社専任顧問（区画整理士）  
// 渡辺光明：エム・ケー株式会社専務取締役（用地開発・区画整理）

今後、現地視察や7月28日、8月26日、9月20日の会議等を経て市に提言。  
市はそれを参考に、今年度中に事業の方向性を決定する予定。

2022年(令和4年)6月8日(水)	享月	日	葉斤	頁
<p>■羽村の区画整理を検証</p> <p>JR羽村駅西口の土地区画整理事業を巡る羽村市の検証会議が6日、始まった。昨春まで5期務めた前市長肝いりの事業だが、900戸以上の家屋の取り壊しや移転を伴うため反対運動は根強い。橋本弘山市長は昨春の市長選で事業の「再検証」を公約に掲げて前市長を破っており、公約を実行に移したものだ。</p> <p>事業は、駅周辺の約42軒（住民約3400人）を整備する計画。当初の期間は2003～22年だったが、地権者らによる訴訟も提起され、延期された。現時点で総事業費は436億円。期間は36年度までを見込む。</p> <p>検証会議は有識者6人で構成され、会長に日大理工学部教授の中村英夫氏、副会長に東京都立大名誉教授の玉川英則氏を選出。市の厳しい財政状況や人口動態などに見合う、事業の「最適な進め方」を今秋までに提言する。市は提言を受けて今後の方針を決めるといふ。</p>				

## —6月市議会 報告—

山崎議員：沿道整備街路事業に変更すれば、東小学校向かいのマンションの移転も不要。鎌倉街道も残せる。

山崎：検証目的「事業の効率的、効果的進め方」とは短期間、最小費用、権利者負担軽減と思う。現状は逆だ。会議では区画整理以外の方法も検討対象になるか。  
市長：検証会議では、各委員の専門的な見地から議論し提言をいただく。具体的な手法を含め今後、検証会議で検討されていくと考えている。

山崎：来年度で事業委託は終了する。それ以降の移転の補償交渉は控えているか。  
市長：令和4年度以降は厳しい財政状況を考慮した事業量とした。今後については、  
検証会議からの提言を参考に、国や東京都との協議も含め、最適な方向性を導き出していく。

山崎：委員5人の予定が、1人増員だが。  
市長：地権者の権利保護など、法律の専門家の視点も重要なため弁護士を追加した。

山崎：検証会議の委員から「権利者の意向確認はどのようにしたか。」の質問に答えがなく、傍聴者に不安が広がった。  
企画部長：今後も、様々な資料要望があると思うので、適宜資料を提供していく。



本来、この事業は今年の3月で終わる計画でした。本当に、「無駄・無理・無謀」な事業です。進まないため、市は「集団移転」で強行しました。隣近所の住民の気持ちもバラバラにされました。

**山崎：都の地震の地域危険度調査で本地区は1か2。  
火災の危険度は1、災害時の活動困難度2。  
西口は安全地帯だ。（5が一番危険、1が安全）**

企画部長：幅員の狭い路地や歩道のない箇所など交通機能に問題があり緊急時の消火、  
救護、避難誘導にも課題がある。地震に対しては地盤の固さや住宅の耐震性など  
様々なデータで構築されていると思う。今の話で危険かどうかは答えられない。

山崎：事業区域は住宅地。交通量も少ない。羽村市の他地区でもやっている「狭隘  
道路整備計画」でやれば済む。1000戸壊す必要はない。

**門間議員：都市計画道路3.4.12号線の異常な幅が住民を  
苦しめている。**

門間：3・4・12号線の大橋改修計画は都からの連絡や協議はどこまで進んでいるか。  
市長：東京都からは、「交通管理者や河川管理者など関係機関との協議を行いなが  
ら詳細設計を進めている。」と聞いている。

門間：いつ頃、羽村大橋は事業化されるのか。（大橋からは高架橋の計画）

まづり部長：時期については聞いていない。関係者や関係機関などもあり、時間を  
要していると捉えている。

門間：事業計画では、JR青梅線との交差部分は立体交差だが、JRや東京都との  
協議はどこまで進んでいるのか。

市長：3・4・12号線の立体交差事業は将来管理者である東京都と羽村市との間で協議に入る段階。立体交差区間は区画整理事業の中で、暫定整備として平面交差により開通させていくことが市民生活の安全、安心、通過車両の円滑な移動に役立つものと考えている。

市では現在、羽村大橋東詰交差点周辺の道路線形改良及び高低差処理を中心に交通管理者の警視庁との協議に向け東京都との協議を進めていく予定。そのため現段階ではJ R 青梅線東部踏切の立体交差計画の具現化には至っていない。

門間：3・4・12号線、何故、羽村だけが40 mや32 mの幅なのか。この大きな道路を造るために区画整理で、住民から土地(平均約22%)やお金(清算金)の提供や移転を迫られ、仮住まいなどの不都合が起きている。

今、リモートで通勤しない方も増え、なおかつ青梅線は本数まで減らす検討をしている状況だ。もう一度考え直す必要がある。

## 門間議員：羽村駅西口区画整理事業は、抜本的な見直しを

門間：事業計画では、地域人口3400人を区画整理で4200人にするとあるが、事業開始から人口減少が始まり現在の西口区画整理区域は2800人と聞く。

市長：本年4月1日現在の西口区画整理地区内の人口は約2300人だが、移転で一時的に地区外に移転している方がいることから暫定的な数値。

門間：地内人口2300人は、換地による仮住まいを考えても非常に少ない。当初計画のように増えていく見込みはほとんど考えられない。つまりこの事業計画の前提が一つ崩れている。

また第6次長期総合計画では、2035(令和17)年には人口が4万8144人まで減少するとしている。根本的に見直し、現道を生かした修復に止めるべき。

市長：これまでの羽村駅西口区画整理事業の変遷や経過、現状などを踏まえ、今後の事業の最適な進め方を導き出すことを目的として検証会議を設置した。社会経済情勢変化への対応や生活環境、防災機能の改善などから本事業のより効率的かつ効果的な進め方について、それぞれの委員が専門的な見地から議論する。会議で取りまとめられた提言を参考に、国や東京都との協議も含め、市として十分な検討を行い最適な方向性を導き出していきたい。

## 櫻沢議員：駅前ロータリーが放置されてる期間は何年か

櫻沢：羽村駅西口駅前ロータリーは、最後に整備工事を行ったのはいつ頃か。駅前整備工事全体の進捗状況はどのくらいか。

市長：平成19年11月の西口駅舎の改修を契機に平成20年度から平成23年度にかけて駅利用者の安全性と利便性の向上の観点から駅前広場の暫定整理、駅前交番の移転、青梅・福生両方面への歩道の整備等に取り組んできた。

駅前広場は暫定整備の状況なので、現時点で進捗状況を答えるのは困難。

櫻沢：整備工事の再開はいつ頃か。西口駅前の整備工事完了予定はいつ頃か。

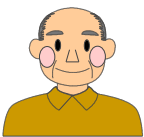
市長：現行の事業計画では、駅前周辺は令和5年度から令和10年度、駅前広場は令和13年度を目途に整備を進めていく計画。

櫻沢：駅前ロータリーが放置されてる期間は何年になるか。

まづり部長：駅前広場の整備は令和13年になるので、約20年ということになる。

櫻沢：西口区画整理事業と切り離して整備を行うつもりはないか。

市長：現時点では区画整理事業と切り離して整備を行う計画はないが、現在、検証会議にて議論を開始した。この検証会議の提言を参考に、国や東京都と協議しながら市として、今後の方向性を決定していく中で、駅前周辺の整備も必要に応じて検討していく。



平成20年2月、地権者から第1次換地設計案の意見書受付中に、急遽、区画整理審議会に駅前の宅地の仮換地指定が諮問された。国の方針で、「事業計画決定後、5年以上未着手なら事業計画見直しの対象」というのがあったからだ。その方々の仮住まいは14年になる。こんな無計画な事業は許されるのか。

また、今S氏の広大な角地の換地が優先的に整備されているということも、多くの住民が納得していない。

## 秋山議員：埋蔵文化財調査で出土が多いことから調査期間が延期された。地権者にはいつ返地出来るのか。

市長：川崎4丁目と羽東2丁目で、当初の想定を超える出土品が確認されている。両地区とも昨年度に引き続き発掘調査の手続きを行い、7月29日を調査完了予定としている。

返地の時期は令和5年1月までに最終的な判断を行っていく。返地は令和5年4月を予定しているので、その実現に向け全力で取り組んでいく。



もともと、区域の半分近くが縄文の遺跡群で、区画整理手法は合わないと言われていたのに、強行したのは何故か？  
調査費も掛かるし、住民の仮住まい期間も長くなる。

- ・仮住まいが長引き、高齢者は体を壊してしまう。無責任だ！
- ・この地域には祭祀の広場（ダイソーの所）や、それを取り巻く円形集落、敷石遺跡や翡翠の勾玉も出土している。何れも貴重な物だ。